

日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

ニュースレター第 66 号

発行人:宗像恒次 編集人:山本美奈子

2019 年 6 月 15 日

事務局:栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

TEL&FAX 028-627-7188

E-mail:info@jamhs.org

第 25 回 日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第 25 回学術大会実行委員長 滝澤 武

(帝京大学宇都宮キャンパス、学生相談室)



第25回日本精神保健社会学会学術大会は、昨年度同様、筑波大学東京キャンパスにおいて開催いたします。今回の大会テーマは「メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会」としました。うつや不安などメンタル不調というとネガティブなイメージを持つ傾向があります。しかしながら、メンタル不調の当事者や家族の経験、支援者の介入が社会のあり方を考えるきっかけになります。また、メンタル不調を経験したからこそ、人生の良い面に気づいたり、強く柔軟な考えや行動がとれるようになることも知られています。

今回の大会では、メンタル不調の体験やその支援の事例を手がかりに満足しあう社会のあり方を考えたいと思います。昨年度は、ADHD(注意欠如多動症)、自閉スペクトラム症などの発達しょうがいに関して「脳の多様性を生かしたメンタルヘルス」について議論をしました。障がいについては、社会的障壁を取り除くために必要な便宜を図る合理的配慮による法的な位置づけが進んでいます。メンタル不調についても、社会を変える可能性がありますし、幸せなメンタル不調者になれる社会的条件があるかもしれません。

現在、私は大学にて学生相談室の業務を担当しておりますが、メンタル不調のある学生の悩みは多様で教職員は対応に苦慮することが多くあります。どうしたら、学生も家族も教職員も満足しあえるのでしょうか。みなさんのそれぞれの体験を持ち寄って議論をしましょう。

本大会ではメンタル不調から、私たちがどれだけ学ぶことができるかの実験的な場になることを期待しています。参加者全員がシンポジストの一人でもあると認識し対話を通じて学びあえる場にしたいと考えております。本大会が参加者にとって有意義な一日となりますよう準備をいたしますので、是非、ご参加のほどよろしくお願いします。

第 25 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第 1 報）

- 開催日：2019 年 11 月 23 日（土）祝日
- 会 場：筑波大学東京キャンパス
- 大会テーマ：メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会

第 1 部： 口頭発表およびポスター発表

第 2 部： ①基調講演 宗像 恒次 学会長

「メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会」

②シンポジウム

シンポジストのご紹介

○北本 宏明氏

（筑波大学発ベンチャー SDS SAT 情動認知行動療法研究所 客員研究員）

○比護 美由紀氏（株式会社ユニノト 取締役）

○武藤 清栄氏（東京メンタルヘルス 所長）

基調講演のご案内

「メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会」

宗像 恒次 学会長

（筑波大学発（株）SDS 情動認知行動療法研究所 筑波大学名誉教授）



私たちのメンタルヘルスは、自然環境や社会環境の変化やそれに伴って生じるストレス状態があったとしても、そこからいかに復元できるかという力（レジリエンス）によっている。不安、うつ、精神障害などを伴うメンタル不調は、レジリエンスの低下から急性的、慢性的に生じている状態である。当事者のメンタルヘル

スは、家族や仲間から支援をもらえ、お互い満足しあえる関係があると、本人もまわりもお互いレジリエンスが向上できる面がある。専門家と呼ばれる人も、当事者と仲間との間と同じように当事者との間に心の支援の相互作用があって、お互い満足しあえる関係があると、お互いのレジリエンスが向上する面がある。

レジリエンスは、周りに対する恐怖感、怒り、悲しみ、罪意識、無力感などが世代間伝達することによって、それ以前の世代から親を経由して継承され、社会適応するために自

己否定しているとき、慢性的な低下が起こりやすい。自己否定は抑うつを促し、「幸せになる価値がないとか、死にたい」という気持ちを起こしやすい。が、それとともに矛盾はするが別に「私は一体何者か知りたい」というレジリエンスを高める前向きな気持ちもあり、本来のあるがままの自己を理解し、お互いを満足させる自己肯定な生き方を学ぼうとする。

社会がレジリエンスを学ぶという意味では、たとえば子どものメンタルヘルスへの慢性的な悪影響を避けるために、躰けであったとしても体罰を禁止する法規範がわが国でも最近成立し、社会が子どもの自己肯定する生き方を促す社会規範を生み出したように、人々が学ぶレジリエンスの向上化と連動しているところがある。

基調講演では、このようにメンタル不調から周りと満足しあえる自己肯定な生き方を学ぶ個々人や社会のあり方について理論的、事例的な講演を行う。続くシンポジウムでは、基調講演を受けて、当事者としてメンタル不調から新たな生き方を学んだ方として、北本宏明氏（筑波大学発ベンチャーSDS SAT 情動認知行動療法研究所 客員研究員）、メンタル不調に悩む家族を支援して学んだ方として、比護美由紀氏（株式会社ユニノト 取締役）、専門家としてメンタル不調に悩む当事者などから学んでいる方として 武藤清栄氏（東京メンタルヘルス株式会社代表取締役）に加わっていただき、フロアの参加者とともに討議しあう予定である。

★発表の募集★

1.発表形式

口頭およびポスターの2種類の募集を致します。発表希望者は、演題名と発表形式、

①口頭、②ポスター、③口頭およびポスターどちらでも可のいずれかを記載のうえ **8月**

31日(土)までに事務局へお申込みください。

申込み方法：E-mail または FAX（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）

2.抄録

抄録は、本学会の定型とし「実践報告型」、「科学研究型」に分けています。フォーマットは、本学会ホームページ <http://www.jamhs.org/>の「学術大会のお知らせ」にあります。定型のものをご使用のうえ、**9月20日(金)**までに事務局にご提出ください。

提出方法：E-mail（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）

3.当日の発表について

①口頭発表

パワーポイントを使用したパソコンの発表とします。学会事務局にてパソコンを準備しますので、当日電子媒体でデータをご持参ください。

②ポスター発表

ポスター発表のスペースは、90cm×180cm（A4用紙で20枚程度貼れるスペース）を予定しています。事前準備のうえ、当日ご持参ください。

2019 年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

今年度も「学会奨励賞」を募集いたします。エントリーを希望される方は、本学会ホームページの「日本精神保健社会学会奨励賞内規」の選考基準を充たしているかご確認のうえ、学会事務局にお問い合わせ下さい。ご希望の方に必要書類をお送りしますので、書類作成のうえ、9 月末日までにご応募ください。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 25」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

1. 原稿締切：2019 年 7 月 5 日（金）厳守

2. 送付方法および送付先

* 郵送のみの受付となります。 詳細は、投稿規定をご確認ください。

* 投稿先

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1 - 1 帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤 武 研究室内 日本精神保健社会学会事務局

理事たちの現場

○ 窪田辰政、近藤七海（静岡県立大学）

本学に赴任し身体運動科学分野を担当して5年目を迎えました。担当科目では、私の専門分野である健康管理学や健康運動心理学の観点を活かした授業を行っています。また研究室としては、健康の維持・増進を図り、社会環境と良好な関係を構築する上で必要な知識・スキルの習得や、運動実践による心理的効果などに関する調査研究及び教育を行っています。私は、本学全体での身体運動科学の通年17.5本の授業運営に加え、体育関連の用具・施設の管理、非常勤講師のコーディネート、体育会部活動活性化のための支援活動なども一手に担当しております。日々の授業では、運動技術の習得のみならず、体育を一つのツールとして、学生が自信やライフスキルを身に付けられるような実践を行っています。大学における体育授業は、身体を動かしたりすることを習慣化される最後の機会となります。授業の内容や進め方を工夫することで、体力向上・技術習得はもちろん、ライフスキルの獲得やメンタルヘルス改善の効果も期待できます。特に1年次には「仲間づくり」の手段にもなり、大学生活への適応や良好な人間関係の構築のための有効なツールにもなります。

昨年度は、学内への貢献として、本学の学生や先生方により気持ち良く本学の体育施設を利用して貰えるよう、施設毎に使用上の注意看板を作成いたしました。また夏期のライフスポーツでは、アーチェリーやトランポリンなど新しいスポーツに挑戦しております。このような新しい取り組みを通じて本学の学生・先生方に身体運動科学の考え方を広げられたと感じています。

今後も独自の授業実践を通じて上記のような教育効果を効率よく得られるよう授業の改善に努めるとともに、自身のテニス経験を活かした部の顧問として、学生と共にスポーツを通じた本学のブランドマネジメントに貢献できれば幸いです。また、私が研究の中で最も興味関心のある心理学の理論を応用し、体育の授業を通じて再現性のあるメソッドを取り入れることで学生の運動技能を高め、付加価値を提供できれば嬉しく思います。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。

*その他の詳細につきましては、静岡県立大学 HP (<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>) をご参照ください。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられております。**2018年度**の年会費は、**2018年10月1日から2019年9月30日**の期間です。今年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願い申し上げます。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL: 028-627-7188 FAX: 028-627-7188、E-mail: info@jamhs.org

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男 ・ 女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			